

SONRISA

そんりさ

vol. 185

コロンビア左派政権樹立

から一年、終わらない戦争



2023年6月、再びマグイで地雷による犠牲者がでた。町では数百人が抗議の声を上げた（ディエゴ・チンガル氏提供）

- | | | |
|----|------------------------------------|---------|
| 02 | コロンビア左派政権樹立から一年、終わらない戦争 | ……柴田 大輔 |
| 04 | 2017年人口センサスでみるペルー社会(3) | ……村井 友子 |
| 08 | 戦時下性暴力裁判を勝ち取った女性たちの今 | ……新川志保子 |
| 10 | 回想のラテンアメリカ クーデター後のチリへ(2) | ……唐澤 秀子 |
| 12 | ラ米百景 民族再興目指し闘うワゴ・メンデス | ……伊高 浩昭 |
| 13 | メキシコ料理ユカタン風ズッキーニ(カボチャ)炒め…ミゲル・アクーニャ | |
| 14 | ムネちゃんのLA情報拾い読み・斜め読み | ……小林 致広 |

2023年7月23日 日本ラテンアメリカ協力ネットワーク (RECOM) 発行

コロンビア

左派政権樹立から一年、終わらない戦争 柴田 大輔

2022年8月、コロンビア史上初となる左派政権が発足した。大統領に就任したのは、1990年に武装解除し政治参加した左翼ゲリラ M-19（4月19日運動）の元構成員、グスタボ・ペトロ氏だ。これまでに上下院議員、首都ボゴタ市長を務め、大統領選挙には3度目の出馬で初当選を果たした。コロンビアは建国以来、保守・自由の二大政党が約200年間政権を担い、直近20年は中道、右派勢力が大統領を輩出してきた。では今なぜ、左派政権が誕生したのか。その背景には、蔓延る政治腐敗、70年に及ぶ武力紛争があり、社会問題を解決できなかった「いつもの人々」とも呼ばれる政権を担い続けた支配層への国民の強い不信がある。

「和平」の失敗と紛争拡大

2016年、コロンビアでは当時最大の勢力を持った反政府ゲリラ FARC（コロンビア革命軍）と政府が和平に合意し、翌年には約13,000人のFARC構成員が武装解除し、紛争終結への期待が大きく膨らんだ。しかしその後、2018年に大統領に就任したイバン・ドゥケ政権の失政により和平への道筋は頓挫し、武装活動を再開するものが現れるだけでなく、複数の麻薬組織が乱立、勢力を拡大し、活動領域をめぐる抗争が激化した。報道によると、2022年にコロンビアで起きた暴力に起因する市民の強制移住は33万件を超え、過去10年で最多となっている。

悪化する治安に生活を侵されるのが、過去にも深刻な暴力に晒されてきた、武装組織が活動する農村地域だ。人権侵害が続く地域の一つに、私が2013年から取材を続けているコロンビア南西部の山岳地帯に暮らす先住民族アワの人たちがいる。

6月11日、SNSにアワの知人たちが投稿する銃声が激しく鳴り響く動画が流れてきた。現地に連絡を入れると。「こっちは状況が複雑だ。私たちの村で複数の武装組織が戦闘を繰り返している。多くの人が避難のため山を降りはじめている」と、返信がきた。前月から山間部で3つの違法武装組織が対立を激化させ銃撃戦が続いているという。



2023年6月、紛争を逃れた人々が麓の町の避難所に集まった（ディエゴ・チンガル氏提供）

安全のために広域から数千人が麓の町へ避難しただけでなく、村の周囲に地雷が撒かれ、逃げ遅れた人たちが山に閉じ込められているとも訴えている。対立するのは、左派系武装組織の国民解放軍（ELN）、2017年に武装解除したFARCの分派である「第30戦線」、「第2マルケタリア」の3つの組織。それぞれ麻薬を資金源としているとされている。

現地では激しく事態が動いていた。6月23日には、慟哭する女性や子供たちの姿を映した動画と、地雷を踏み腰から下を吹き飛ばされた男性の写真が届いた。その男性は、私も知る人だったし、動画には、私が現地で世話になった人たちも多数映し出されていた。あまりの出来事に、私は自宅でパソコンに向き合い、ただ茫然としていた。彼らが暮らすのは、先住民族アワの人たちが暮らす「マグイ」という自治地域だ。以前は麓の街から6時間かけて歩いていたが、昨年ようやく車道が村の入り口まで開通し、2時間余りに短縮された。ただそこから先に車道はなく、馬か徒歩で1日、2日かけて人々が行き来する。マグイを構成する5つの集落で計300家族ほどが農業や牧畜を営み、自給自足的な暮らしを送ってきた。地域が初めて戦争に巻き込まれたのは2000年前後で、反政府ゲリラFARCが地域を支配し始めてからだった。

2002年、対ゲリラ強行派の政権が発足すると、マグイ一帯に空爆が繰り返された。ゲリラを締め

出したい政府軍は山への攻撃を激化させ、住民をゲリラの協力者とみなし迫害した。ゲリラの情報を引き出すために不当に拘束され暴行を受ける住民もいたし、ゲリラとの関係を疑われ殺害される人もいた。ゲリラも住民への締め付けを強くした。軍や警察に情報をもらす人を殺害し、見せしめに遺体を晒すこともあった。住民は瞬間にコロンビアで最も激しい暴力に巻き込まれた。2016年の和平合意はようやく訪れた平穏だったが、一時的なものでしかなかった。

立ち上がる当事者たち

地雷の犠牲者がでたと聞いた数日後、別の映像が送られてきた。避難民が集まる町で行われた犠牲者の葬儀だった。小さな町を貫く一本の未舗装路を、棺を担ぐ人とそれを囲む数百人が列をなし、平和を訴える白旗と先住民族の自治を象徴する「杖」を掲げ行進していた。数百メートルに及ぶ列の中には犠牲者と同郷の避難民だけでなく、町の住民も多数参列し、抗議の声を上げていた。同時に、彼らは町の外側を通る幹線道路を封鎖し、戦争を放置した責任を国に問い、必要な支援を求めている。

この光景を見て、2011年との違いに驚いた。2011年12月にも同じ町で、マグイで地雷の犠牲になった人の葬儀が行われていた。その時、たまたまこの町に滞在していた私は葬儀に立ち会っていたが、参列者は親近者が数十人だけで、今回のように平和を訴えるものとはかけ離れていた。慢性化する戦争の中で、同様の場面は繰り返されていたため、それを特別視する人は誰もいなかったのだ。

約10年が経ち、人々の意識は大きく変化していた。この間に何が起きていたのか。私は縁があり、2011年以来、葬儀が行われた町と避難民が暮らしてきた山間部を繰り返し訪ねてきた。その時期コロンビア中が訪れるであろう「和平」に向けて期待を膨らませる時代と重なった。そこで出会ったのは、様々な場所に出向き紛争被害を語り、安心して暮らすために自分たちの権利を主張する被害者たちだった。外部の支援者との交流も繰り返しながら、こんな言葉が発せられていた。

“Luchamos! No más silencio”（闘おう！私たちはもう黙らない）。



2011年マグイで地雷の犠牲者がでた。麓の町で葬儀が行われた（2011年12月 筆者撮影）

今回、被害を受けている自治組織「マグイ」が声明文を発表した。そこには自分たちが起こす抗議が、先住民族の権利を明記した国際法と、それを踏まえて作られたコロンビア憲法と、その憲法に基づく国内法に裏打ちされた権利の正当な主張であることが明記され、問題解決のためにSNSやメディアを通じて世界に広く意見を発信し、仲間を募っていた。

私はこの地域が再び戦火に包まれて、「10年前に時代が戻ってしまった」と感じ、ひどく気分が落ち込んだ。しかしそれは間違いだと感じた。この10年の間に確実に根付いたのは、先住民族としての権利意識だと感じた。この土地は誰のものなのか。外から来て戦争をする人間のものではない。自分たちこそが土地の主権者なのだということだ。その意識が根付いたのは、当事者としての地道な運動の成果であり、当事者の主張を支える地域住民や内外の支援者の存在がある。これは、より良い社会の建設を諦めないコロンビア社会で生きる多くの人たちの意思の表れであると感じている。

2023年6月、違法武装組織ELNと政府が8月より180日間の停戦に合意し、2025年5月までの紛争終結に向けて和平交渉を進めることが発表された。さらに7月7日には、旧FARC分派最大の「FARC-EP中央参謀本部」が、政府と和平交渉に向け対話が始まると報道された。ただ一方で、現在のコロンビアで市民が犠牲になるのは、違法組織同士の抗争が主な原因である。違法組織が存在し続ける要因として指摘される貧困、差別的な社会構造などの社会問題を左派政権が具体的にどう解決していくかが問われている。

人口動態と民族統計

村井 友子

第3回は、第2回で紹介した2017年人口・住居センサスの集計結果から、ペルーの人口動態と民族統計を中心に報告します。

ペルーの人口動態

図1は、1940年から2017年までに実施された人口センサスの結果に基づいた総人口と人口増加率の年平均値をグラフ化したものです。ペルーの人口増加率の年平均値は、1961年センサスから1972年センサスまでの2.8%をピークとして、2007年センサスから今回の2017年センサスまでの1.0%まで低下してきました。

図2は海岸地域、山岳地域、熱帯低地地域の1940年から2017年までの人口の推移を示したグラフです。ペルーでは、1940年代より山岳地域の先住民コミュニティを離れて海岸地域の都市に移住する先住民数が増加していきました（Pajuelo 2007）。その結果、図2が示すとおり、1972年センサスの時点で、山岳地域と海岸地域の人口の逆転現象が起きています。2007年センサスから2017年センサスにかけての海岸地域の年平均人口増加率は1.3%、熱帯低地地域は1.0%、山岳地域は-0.6%で、図2のグラフからも明らかなおとおり、2007年から2017年にかけてアンデス山岳地域の人口は減少しています。

表1のとおり、都市と農村の人口比率は、2007年の都市部72.5%、農村部27.5%に対し、2017年は都市部79.3%、農村部20.7%で、2007年から2017年の人口増加率の年平均値は都市部1.6%に対し、農村部は-2.1%でした。この都市と農村の人口比率の変化と人口増加率から、農村から都市への人口移動の傾向を読み取ることができます。

ペルーの性比（2017年）は、女性100に対して男性が96.8で、女性比率が高いという特徴があります。その一因に男性の海外移住者の多さがあるのではないかと考え、移住統計を調べてみたところ、予想に反して、女性の方が男性より若干海外移住者数が多いことがわかりました。1990年から2019年までに海外移住した3,241,992人の内訳は、女性51.8%、男性48.2%となっています（INEI2019）。

図1 ペルーの総人口と人口増加率/年の推移（1940年～2017年）

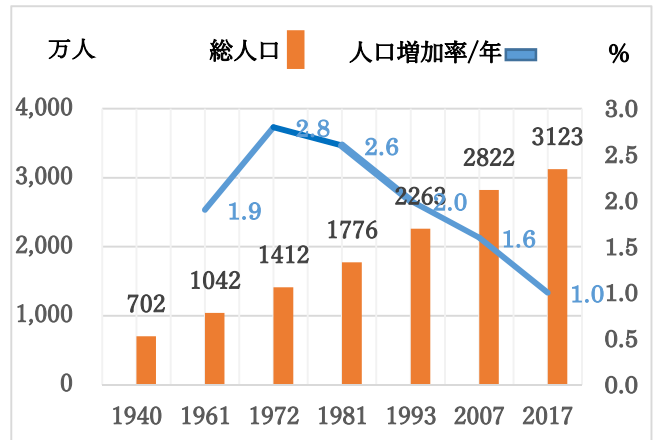
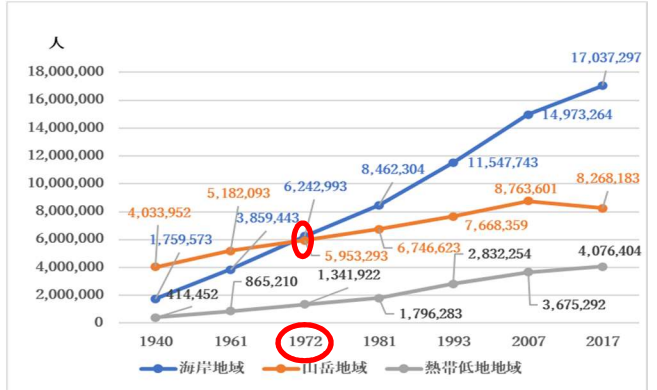


図2 海岸、山岳、熱帯低地地域の人口の推移（1940年～2017年）



（出所） INEI（2018d）を基に筆者作成。

表1 ペルーの人口動態と社会統計（2007年、2017年）

項目	2007年	2017年	
都市人口と農村人口の割合%	都市 72.5 農村 27.5	都市 79.3 農村 20.7	
性比 (女性=100)	98.8	96.8	
平均寿命 (歳) *	74	76	
中位数年齢 (歳)	25	29	
合計特殊出生率 (人)	全国 1.7	全国 1.5	
12歳以上の女性	都市部 1.5 農村部 2.5	都市部 1.4 農村部 2.1	
識字率 %	全国	全体 92.9	全体 94.2
	15歳以上	男性 96.4 女性 89.4	男性 96.9 女性 91.5
		都市部	全体 96.6 男性 98.5 女性 94.9
農村部	全体 81.5 男性 90.4 女性 71.9	全体 83.0 男性 90.9 女性 74.9	

（出所） INEI ウェブサイトで公開の Censos Nacionales 2017 の各種計結果を基に筆者作成。*平均寿命は World Bank Open Data による。

なおセンサス報告書に性比に関する補足説明がないため、その要因は不明です。

合計特殊出生率は、2007年の1.7から2017年には1.5に低下しており、近年少子化傾向が強まっています。出生率は都市・農村部の両方で低下してきましたが、出生率は都市部より農村部の方が高くなっています。識字率は、全般的に2007年と比べ2017年に改善していますが、農村部の女性の識字率が依然として低いという問題があります。

図3はペルーの年齢別人口構成を年少人口（14歳以下）、生産年齢人口（15～64歳）、老年人口（65歳以上）の比率で示したグラフです。ペルーでは、生産年齢人口が全人口に占める割合が、1993年から2017年にかけて増加し、それに伴って従属人口指数（生産年齢人口に対する従属人口〔年少+老年人口〕の比率）が低下してきました。これはペルーが豊かな労働力が経済成長を促すといわれる人口ボーナス期にあることを意味し、この傾向は2050年まで続くと予測されています（INEI 2018b）。

一方で、生産年齢人口の増加と同時に出生率の低下による年少人口の減少と平均寿命の上昇による老年人口の拡大が進行しています。この少子高齢化の傾向は、図4の人口ピラミッドの変化からも明らかで、低い出生率がこのまま続くと、ペルーもいずれは日本と同じ高齢化社会の問題に直面していくことが予想されます（INEI 2018b）。

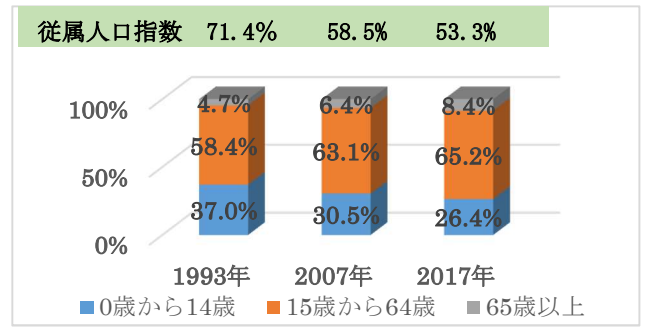
この平均寿命の上昇と出生率の低下は、いまや先進国だけの問題ではなく、人口増加率が1950年代から2%を割り込んだことがないアフリカ諸国を例外として、多くの開発途上国で起きている現象です（平野 2022年）。

表3は、過去36年間におけるペルー人の婚姻関係の変化を示しています。ペルー人の婚姻関係は、長い歳月のなかで少しずつ変容してきました。目を引くのが、法的な手続きによる婚姻関係のあるカップルの減少（1981年38.4→25.7%）と、結婚していない同棲カップルの増加（1981年12.0%→2017年26.7%）です。また、別居しているカップル数も漸増してきました。

ペルーの民族統計

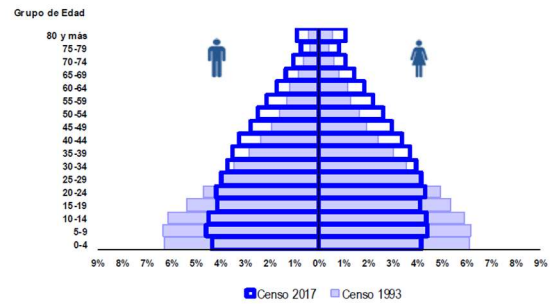
次に2017年の人口センサスで初めて明らかになった民族統計の一端を報告します。表4は、先述の人口センサスの調査票のなかの民族的帰属の自己認識の質問（12歳以上対象）に対する回答の

図3 ペルーの年齢別人口構成と従属人口指数（1993、2007、2017年）



（出所）INEI（2018b）を基に筆者作成。

図4 ペルーの人口ピラミッド：1993年と2017年センサスの比較



出所 INE-Censos Nacionales de población y Vivienda 1993/2017

表3 婚姻状況（12歳以上）の変化：1981年-2017年センサス

婚姻状況	1981年	1993年	2007年	2017年
同棲 conviviente	12.0%	16.3%	24.6%	26.7%
別居 separado/a	1.6%	1.8%	3.4%	4.2%
既婚 casado/a	38.4%	35.2%	28.6%	25.7%
寡夫/寡婦 viudo/a	4.7%	4.0%	3.9%	4.1%
離婚 divorciado/a	—	0.4%	0.5%	0.9%
独身 soltero/a	43.3%	42.3%	39.0%	38.5%
合計	100	100	100	100

出所 INEI（2018d）

図4 ペルーの県地図



（出所）Alexis Eco（CC BY-SA 4.0）

集計結果です（そんりさ 184 号参照）。

全国レベルで見ると、メスチーソが 60.2%と最も多く、2 番目がケチュア 22.3%、3 番目が白人 5.9%、4 番目がアフロ系ペルー人 3.6%、5 番目がアイマラ 2.4%、6 番目がアマゾン熱帯低地地域の先住民族（ナティーボ）0.9%、7 番目がケチュアとアイマラ以外のアンデス山岳地域の先住民族 0.2%、その他 1.2%という結果になっています。

都市部と農村部で比較すると、都市部のメスチーソの比率が 63.9%であるのに対して、農村部の比率は 45.1%、また都市部における先住民族（ケチュア、アイマラ、その他のアンデス地域の先住民族、アマゾン地域の先住民族の合計）の比率が 21.1%であるのに対して、農村部の比率は 44.7%と、民族の構成が都市部と農村部では大きく異なることがわかります。その要因のひとつには、アンデス地域とアマゾン地域を中心に独自の共同体を形成して集住する先住民族の存在があります。

一方で、ケチュアの都市人口が農村人口の 2 倍以上になっている点が注目されます。山岳地域から海岸地域の都市への人口移動については図 2 でみたとおりですが、本集計結果からアンデス山岳地域を出自とする先住民族の 89.6%を占めるケチュアについても、農村から都市への人口移動があったと推察されます。他方でアマゾン地域を出自とする先住民族の人口規模は小さく、現在も全体の約 4 分の 3 がアマゾン熱帯低地地域のコミュニティで生活しています。

アンデス地域を出自とする先住民族（ケチュア、アイマラ、その他の先住民）が最も多く居住する県はリマ県（133 万 894 人）で、多くのアンデス系先住民が首都リマに居住していることがわかります。これにアンデス山岳部が広がるプーノ県（85 万 7312 人）、クスコ県（71 万 6013 人）が続いています。アマゾン地域の先住民族が多く居住している県は、ロレート県（5 万 1722 人）、ウカヤリ県（3 万 6774 人）、フニン県（3 万 5920 人）、アマソナス県（3 万 4958 人）です。アフロ系ペルー人は全土に居住していますが、太平洋に面したリマ県（22 万 795 人）、ピウラ県（12 万 4964 人）、ラ・リベルタド県（10 万 2035 人）に多いことが報告されています（図 4 参照）。ペルーの民族の人口分布は、2017 年人口センサスで民族的帰属の自己認識に関する質問（12 歳以上）によって初めて明らかになりました。

表 4 民族的帰属意識からみた民族別人口（12 歳以上）

民族	全国		都市部		農村部	
	人口	%	人口	%	人口	%
メスチーソ	13,965,254	60.2	11,905,763	63.9	2,059,491	45.1
白人	1,366,931	5.9	1,178,056	6.3	188,875	4.1
ケチュア	5,176,809	22.3	3,526,456	18.9	1,650,353	36.1
アイマラ	548,292	2.4	337,559	1.8	210,733	4.6
他のアンデス先住民	49,838	0.2	24,098	0.1	25,740	0.6
アマゾン先住民	210,612	0.9	55,052	0.3	155,560	3.4
アフロ系ペルー人	828,841	3.6	689,201	3.7	139,640	3.1
その他	278,788	1.2	260,097	1.4	18,691	0.4
無回答・不明	771,026	3.3	652,517	3.5	118,509	2.6
合計	23,196,391	100	18,628,799	100	4,567,592	100

（注）アフロ系ペルー人は、黒人、モレノ、サンボ、ムラート/アフロ系ペルー人、アフロ系子孫を含む。

（出所）INEI（2018c）を基に筆者作成。

表 5 幼少期の母語の内訳：全国、都市部、農村部（5 歳以上）

言語	全国		都市部		農村部	
	人口	%	人口	%	人口	%
スペイン語	22,209,686	82.6	18,822,778	87.9	3,386,908	61.8
ケチュア語	3,735,682	13.9	2,078,145	9.7	1,657,537	30.3
アイマラ語	444,389	1.7	230,486	1.1	213,903	3.9
他の先住民言語	210,017	0.8	35,856	0.2	174,161	3.2
外国語	48,910	0.2	46,930	0.2	1,980	0
聴こえない/話せない	24,624	0.1	16,981	0.1	7,643	0.1
ペルー手話	10,447	0	7,597	0	2,850	0.1
不明・無回答	203,829	0.8	169,555	0.8	34,274	0.1
合計	26,887,584	100	21,408,328	100	5,479,256	100

（注）他の先住民言語は、アシャニカ、アワフン/アグナルナ、シビボ-コニコ、シャウイ/チャヤウィータ、マチゲンガ（マチゲンカ）、アチュアルなどの先住民言語を含む。

（出所）INEI（2018c）を基に筆者作成。

表 5 の幼少期の母語の内訳は、スペイン語が 82.6%、ケチュア語 13.9%、アイマラ語 1.7%でした。表 4 と表 5 の結果を総合していえることは、多民族国家ペルーでは、様々な民族集団を出自とし、異なる民族的帰属意識を持ちながら、幼少期よりスペイン語を学び、スペイン語を母語として生活する人が数多く存在することです。国立統計情報庁（INEI）の分析では、アンデス地域の先住民族に民族的帰属意識を持つと回答したペルー人が年少期に母語として学んだ言語は、ケチュア語 50.1%、スペイン語 42.9%、アイマラ語 6.8%、その他の先住民言語が 0.2%でした（INEI 2018a）。

2017年センサスから見える格差

最後に、2017年人口・住宅センサスの結果から、都市と農村、異なる民族を出自とする人々の間に存在する格差を示す統計指標を見ていきたいと思ひます。

表6が示すとおり、すべての項目で都市部と農村部の間に大きな格差が見受けられます。農村部では教育を受けていない人口が15.2%に上り、上水道や電力など公共サービスにアクセスがある住宅の割合も低くなっています。とくにアマゾン地域に居住する多くの先住民が上水道、電力などの公共サービスが届かない居住環境で暮らしていることがこれらの指標から窺えます。

表6 各種社会統計の比較：都市と農村、民族

質問内容	国全体	都市部	農村部	アンデス系先住民に 帰属意識	アマゾン系先住民に 帰属意識	アフロ系 ペルー人
識字率(15歳以上) %	94.2	96.8	83.0	89.2	84.1	94.0
教育を受けていない人口(15歳以上) %	5.0	2.6	15.2	9.4	14.4	4.9
上水道サービスへの アクセスがある住居 %	78.4	86.4	51.9	73.4	33.2	80.9
				都市部 83.3	都市部 75.4	都市部 86.1
				農村部 52.8	農村部 11.5	農村部 52.9
電力サービスへのア クセスがある住居%	87.7	93.7	68.3	83.7	46.1	90.7
				都市部 91.7	都市部 87.5	都市部 93.5
				農村部 67.1	農村部 24.9	農村部 75.6
インターネットへのア クセスがある世帯 %	28.2	—	—	19.8	9.8	27.4
携帯電話を所有する 世帯 %	83.8	—	—	80.9	42.9	86.2

出所 INEI(2018a)、INEI(2018d)を基に筆者作成。

おわりに

INEIは、2017年人口・住宅センサスの集計結果をもとに、文化省(Ministerio de Cultura)と共同で、「民族に関する自己認識：先住民族とアフロ系ペルー人の人口」(INEI 2018a)という調査報告書を2018年12月に刊行しました。この報告書ではアンデス系先住民族、アマゾン系先住民族、アフロ系ペルー人、メスチーソ、白人について、各民族の社会人口学的な比較分析を行っています。

回答者の自己認識のみで民族への帰属を決定する手法には多くの問題点が指摘され、民族統計調

査には多くの課題が残されていますが、この2017年センサスを起点として民族統計が整備され、ペルーのエスニシティ研究が進展していくことを期待します。

今回は、2017年人口・住宅センサスと同時期に、アンデス山岳地域、海岸地域、アマゾン熱帯低地地域の先住民族共同体を対象を絞って実施された第3回先住民族コミュニティ・センサス(Censos Nacionales 2017 de III de Comunidades Indígenas)について報告します。

参考文献

- 遠藤健太(2021)「米国とメキシコで実施された2020年国勢調査の政治的諸相」『ラテンアメリカ・カリブ研究』28号、84-97。
- 平野克己(2022)「人口革命：アフリカ化する人類」朝日新聞出版
- 村井友子(2022)「第9回ペルー——2017年センサス(中):人口動態と民族統計(連載：途上国・新興国の2020年人口センサス)」
<https://www.ide.go.jp/Japanese/Library/Column/2022/1024.html>
- Instituto Nacional de Estadística e Informática (INEI)
- (2018a) *La Autoidentificación étnica: Población Indígena y Afroperuana: Censos Nacionales 2017: XII de Población, VII de Vivienda y III de Comunidades Indígenas*, INEI. https://www.inei.gob.pe/media/MenuRecursivo/publicaciones_digitales/Est/Lib1642/
- (2018b) *Censos Nacionales 2017: XII de Población, VII de Vivienda y III de Comunidades Indígenas*, INEI. https://www.inei.gob.pe/media/MenuRecursivo/publicaciones_digitales/Est/Lib1437/libro.pdf
- (2018c) *Perú: Perfil Sociodemográfico, Informe Nacional, Censos Nacionales 2017: XII de Población, VII de Vivienda y III de Comunidades Indígenas*, INEI. https://www.inei.gob.pe/media/MenuRecursivo/publicaciones_digitales/Est/Lib1539/libro.pdf
- (2018d) *Perú, Resultados definitivos de los Censos Nacionales de 2017: XII de Población, VII de Vivienda y III de Comunidades Indígenas*, Tomo 1, INEI. https://www.inei.gob.pe/media/MenuRecursivo/publicaciones_digitales/Est/Lib1544/00TOMO_01.pdf
- (2018e) *Perú, Resultados definitivos de los Censos Nacionales de 2017: XII de Población, VII de Vivienda y III de Comunidades Indígenas*, Tomo 4, INEI. https://www.inei.gob.pe/media/MenuRecursivo/publicaciones_digitales/Est/Lib1544/
- (2021) *Perú: Estadísticas de la emigración internacional de peruanos e inmigración de extranjeros, 1990-2019*, INEI. <https://peru.iom.int/sites/g/files/tmzbd1951/files/documents/est19902017.pdf>
- Pajuelo Teves, Ramón (2007) “Capítulo 3. Perú: política, etnicidad y organizaciones indígenas”, *Reinventando comunidades imaginadas: movimientos indígenas, nación y procesos sociopolíticos en los países centroandinos*, IIFEA, IEP, pp. 95-125.

グアテマラにおける戦時下性暴力を裁いたセプルサルコ裁判（2016年）から7年余りが過ぎた。加害者2名を有罪にし、さらに国家の責任を認めた画期的な裁判であった。原告団だった被害女性たちの現在の状況と補償の進捗は今どうなっているのか。そしてこのプロセスに大きな影響を与える大統領選挙の結果について報告したい。



女性たちの集まり

女性たちの今

裁判の原告は15人の女性だった（うち1人は裁判前に亡くなり、現在は14人）。勝利判決の後、彼女たちは「ハロク・ウ」（マヤ・ケクチ語で変革の意味）というグループを作り、女性弁護士組織MTMの支援で活動している。判決は、加害者2名に対して賠償金の支払いを命じたが、現在まで不履行のまま、女性たちは金銭的な補償を受けていない。みな貧困におかれたままだ。だんだんと高齢になり、健康問題もかかえている。寝たきりの状態になっている人も一人いる。

毎年のようにハリケーンや大雨の被害があり、ここ数年はコロナ禍で生活が一層困窮した。裁判・補償がきっかけになって家族との関係が悪くなった人もいる。わずかでも外部からの支援があることで、羨望のもとになり、なかなか難しい。レコムは毎年日本キリスト教協議会女性委員会から世界祈祷日献金をいただき、それをハロク・ウの女性支援のために送っている。支援金は医薬品や食料など彼女たちが最も必要とするものに使ってもらっている。

このような困難もあるが、コミュニティではハロク・ウの女性たちは尊敬されているし、「内戦被害者の尊厳回復の日」と定められた2月25日には、毎年これらの女性を中心に催しを行っている。

補償の履行状況

残念ながら大きな進展がないまま現在に至っている。判決すぐの大きな成果は移動クリニックがオープンしたことだった。セプルサルコ村だけでなく近隣の村も巡回することができるようになって地元の住民は喜んだが、それも時間がたつうち

に予算が回らなくなり、人員が減らされている。

NGOが小さなクリニックを建てて、保健省に提供したが、看護婦2名ですべてに対応しなければならず、薬もなく、電気代未払いで止められている。現在は1日に5人に対応するのがやっとという状態だ。そのほか、地域で強制失踪させられた人々の行方を捜査、セプルサルコの学校施設の改善、こども、青少年、女性のための中等教育施設の建設、奨学金、判決文を24のマヤ言語に翻訳すること、2月26日を「性暴力被害者の日」と制定するなど命じられていたが、教育の分野で若干の進展があった以外は特筆すべきものはない。

最も重要で根本なのが土地問題の解決だが、これも進展は見られない。そもそもこの一帯は、不当に囲い込まれた土地が転売されたりして、「所有者」を特定するのが難しく、複雑で、政府が積極的に介入しなければ解決の見込みがない。前政府も現政府にもその意思がないので動かないままなのだ。しかも政治状況は悪化の一途を辿っているので、このままでは事態が改善する見通しはない。

とはいえ、政府に対して粘り強く交渉すると同時に、女性への暴力を根絶するためのさまざまな努力が市民社会で続けられている。数々の研修や催しを通じてコミュニティの人たち、特に若い人



2月25日「内戦被害者の尊厳回復の日」のパレード

たちの意識は変わってきている。それがコミュニティの強化につながっている。このような努力の原動力となったのがセプルサルコ裁判の勝利判決である。

この裁判がもし現在行われていれば、有罪判決は出なかつたろうというのが、関係者の一致した意見である。政権批判や汚職追及をする司法関係者は数年前からパージされ、数百人が国外に亡命しているほか、でっちあげの罪で刑務所に入れている人も多い。最高裁判事などはすでに政府の言いなりになる人で固められており、司法が機能していない状態だからだ。

このような状況の中、今年6月に総選挙が行われた。事前の調査では内戦中のマヤ先住民族に対するジェノサイドで裁判を受け有罪になったリオス・モント将軍（故人、後にこの判決は無効となった）の娘であるスーリ・リオスが有力とされており、彼女が当選すればセプルサルコ裁判で勝ち取ったものがすべて反故にされるだろうと危惧されていた。リオスでなくとも主要政党は「汚職同盟」と呼ばれる密約を交わしており、どの政党がなくても現在の政治腐敗は続くだろうと見られていた。

大統領選挙

そうして投票日の6月25日。開票の結果、一番多かったのが無効票（17.3%）であった。白紙も多数で、これらは従来の選挙よりずっと多い割合だった。わざわざ投票に行き、「盗人」「汚職まみれ」などを書いて、無効票を投じた人々が多かったのだ。メディアが「当選者は無効票」と報じたほど、有権者の既存政治の腐敗に対する怒りと失望が大きく、それを表現するための行為だったと言えよう。左派政党や既存体制を批判した政党は不当に候補者届けを却下され、無効票を呼びかけてもいた。

結局、過半数の得票者がいなかったために、上位2名で決選投票（8月20日）を行うことになった。上位2名とは、国民希望党（UNE）のサンドラ・トーレス（15%）とセミージャ（種の運動）のベルナルド・アレバロ（12.2%）で、トーレスは主要候補の一人だったが、アレバロはこれまでのアンケートにも現れなかつたのが2位に躍り出た



サンドラ・トーレスとベルナルド・アレバロ

ので驚きをもって受け止められた。腐敗への闘いのかかげてSNSを活用し、都市部でそのメッ

セージが浸透した結果とみられる。

これでにわかには決選投票へ向けての期待が高まったが、すぐに「汚職同盟」の政党らが動き出し、選挙結果に不正があったと憲法裁判所に申し立て、集計のやり直しが命じられた。本来、選挙に関する問題は最高選挙裁判所が取り仕切ることになっており、憲法裁判所の所管ではなかつたので、専門家らが違憲だと批判、市民社会や他国政府からも憂慮する声明が相次いだ。

問題なのは、司法が機能していないため、違法な判決が下されてもどうともすることができないことだ。結局、再集計が3日間にわたり行われ、僅差の訂正はあったが結果は変わらず、最高選挙裁判所は選挙結果を正式承認した（7月10日）。

がこれでも終わらず、今度はセミージャの党員登録に問題があったとして、地裁に訴えた党があり、地裁の権限外であるにもかかわらず、それが認められる判決が出されるなど、混迷は続いている。この件は結局セミージャ側が憲法裁判所に訴え、このまま決選投票を行うということになった。

一連の動きをクーデターだと言う人もいて、この先も何が起こるか分からない。無事に8月20日の決選投票が終わり、その結果が出ることを待つばかりである。

セプルサルコ裁判

内戦中の1982年、イサバル県セプルサルコで軍による「ゲリラ殲滅」の名目で地域に住むマヤ住民が弾圧された。その過程で多くの女性たちが軍兵士により強かんされ、数ヶ月から数年にわたり性奴隷の状態に置かれた。当時軍人・軍属だった2名を加害者として刑事告発し、2016年に裁判で有罪を勝ち取った。（そんりさ156号参照）。直接の加害者だけでなく軍・政府の責任も認めた画期的な判決が出た。戦時下性暴力をその国で裁いた初めてのケース。

お兄さん（教師）の話—アジェンデ政権の時に古典や文学作品などが文庫本で安い値段で出版され、自分もたくさん集めていた。質の高い内容で素晴らしかった。クーデターが避けられない状況になったとき、庭に穴を掘ってそれらを埋めておいた。クーデターが起きると、はたせるかな、家はぐるりと、兵士に取り囲まれていた。どの家もどの家も一軒ずつ嚴重に調べられ、「危険」とみなされたものはすべて没収された。一年もたった頃か、本を掘りだして乾そうと思った。暖炉で乾かそうとしたが、長いこと使っていなかったので火が燃えず、屋根に上って煙突に塩をまこうとしていたところ（長い間使わずにいて燃えにくい時は塩をまき掃除するというような説明だったが、いまひとつよく分からなかった）、極左勢力が爆弾を投げようとしていると通報され、もう少しで殺される場所だった。そのうえ本が見つかってしまい、結局焼かれてしまった（たしかに焼けただれた本が書棚にあった）。

そればかりではない。文化的な面での弾圧は、たとえば、アジェンデの時代に出された奨学金は取り消され、大学はふたたび支配階級のものとなってしまった。学生のなかにスパイがまじっていて、授業の様子を見張っている。居なくなってしまった教授もいる。今、われわれのようなものは食べるのに精いっぱい、大学にいるのは金持ちの息子たちばかり、上流階級は労働者の子どもたちと肩を並べて学ぶなんてとんでもないと言って憎しみを隠そうともしない。

お母さんの話—まじめに勉強しようなんて思ってもいないのだから、将来おそろしい学問の空白期間が生まれるわね。そればかりじゃあない。上流階級は労働者と同じものを食べることを憎んだ。労働者が権利を持つのを憎んだ。アジェンデ政権に反対する有閑女性たちのフライパンデモ（彼女たちがフライパンを叩いてデモ）、お店のスト、運送ストが続いたとき、一ヶ月も物が買えず、蓄えておいたものでなんとか切り抜けたけど、物が無い、生産が落ちていると騒いだ二日後に店に物があふれる（パトリシオ・グスマンの『チリの闘い』で描かれているように、日用品を故意に隠し物資不足を演出する勢

力がいた）。たった二日で物が生産できるなど、どんなバカが思うものか。

今はアジェンデをクーデターで葬ったから、やりたい放題。逮捕された人の家のなかには、壁も床も屋根裏もはがされ、椅子やソファのクッションは切り裂かれ、家具はめちゃめちゃ、食器も電気製品も壊され、外観は家のようなが、中はまるで廃墟よ。

あの最初のおそろしい一年、自分が耐えられると思えなかった。でもこうしてかれこれ三年近くが過ぎ、軍は最初のようなむき出しの弾圧はしないけれど、中身は同じよ。告げ口が恐ろしい。町でも家でもこの人は信用できるかと、じっと息をひそめて用心している。歌いたい歌も、あれもだめ、これもだめ、だめ、だめ、聞こえたらどんなことになるか…

今でも夜一時過ぎは外出禁止よ。結婚式だって、ある一組が軍の許可を取り夜遅くまでパーティをして歌ったり踊ったりしていたところへ踏み込んできて全員逮捕よ。許可を取っていたのに。気の毒に新婚の二人はハネムーンを卒で過ごしたのよ！

妹さんの話—以前は民芸品の市で働いていたけど、今は軍人の家族があの市を取り仕切っている。だからいまは失業していて、昨日も今日も一日中方々を訪ねたけど、どこもだめ。私はいろいろ資格をとっているから、アジェンデ政権のときには仕事に困らなかった。でも、なにしろ父は組合のリーダーとしてチリ全土で活躍していたし、私たちきょうだいはみんなアジェンデの支持者だと知れ渡っているから、だれも仕事をくれようとしなない。私だけじゃない、たくさんの人が失業に苦しんでいる。

このようなことを声を潜めて次々と語ってくれた家族の話から、彼らのように家族全員で働いて経済的に余裕のあった人たちでさえ、明日はどうか分からない不安を抱えながら懸命に働き口を探していることが伝わってきます。それでも少しでも自分の手元に食べるものやお金があれば、もっと不安な人たちへのささやかな援助を惜しまない、支えあって生き延びようという日々が感じられるのです。こんな苦しい時に他人のことを思いやり、食べ物を分けてあげる、自分だったらどうするだろう、こんなふうにはできるだろうかと思わずにはいら

れませんでした。

ただ、先住民の話が出るときには、どうしてこの人たちがと、いぶかしく思うことがありました。この家でも先住民の娘さんが働いていました。よく働く気持ちの良い、まだ少女と言ってもいいような若い娘さんでした。家事労働をする立場は、一段低くみられることはどこでもよくあることだと思います。それでもとても民主的で良心的な考え方をもち、他の人びとの苦境には自分も苦しいのに手を差し伸べる家族の皆さんが、いちように「あの人たちは無能で汚い、吞んでくれで家事労働の手伝いくらいしかできない」と口にするのを聞くと、先住民、家事労働などに関して長い生活の実感から出来上がった考えに自分も深くとらわれているように、そこから解放されるのはどれほど難しく、時間がかかることだろうかと思わずにはられません。

エクアドルで会ったボリビアの映画監督ホルヘ・サンヒネスは「左翼の中にもインディオを差別する人間がいるんだ」と語っていましたが、そのことをまざまざと実感したのです。

お世話になった家族の皆さんが私たちに記念にと、手作りの首飾りをプレゼントしてくれました。金属製の板を切りとって磨いて形作ったような感じがします。聞けば、政治犯として逮捕された人たちが獄中で作ったものだというのです。獄中で手に入る限られた材料で工夫して作っているのだそうです。獄中の過酷さを何度も聞かされる一方でこのような自由な時間の過ごし方ができる、そのことにも驚きました。

テムコを去る前夜、ひとりの年配の女性が訪ねてきました。私たちがこれから北に向かって旅を続けることをデイジーの母から聞いて、亡命している息子への伝言を頼みに来られたのです。喪服に身を包み、ヴェールで顔を覆った彼女は癌で余命宣告を受けているといいます。息子へ母からの最後のキスを伝えてください、と言うのです。ヴェールをとった彼女の知的で燃えるような瞳は 50 年がたったいまでも、忘れることができません。



贈られた銅板

亡命者を訪ねて

私たちはこのあとふたたび北へむかったのですが、その息子さんが滞在していたのはコスタリカでした。コスタリカに着いて教えられた住所を訪ねていくと、一目でその息子さんと分かる長身の男性がいました。訪ねてきた理由を告げて、キスをおくると、「ああ、南の果ての国境線なら夜の闇に紛れて越えられるのではないか。武器をとってやつらと戦いたい。国へ帰りたい」とつぶやいていました。ある日招かれたとき、当時のことを聞きました。

彼の話—クーデターが起きた日、以前からその時は日本へと思っていたから、迷わず日本大使館へ行った。日本は経済的に豊かな未知のアジアの国だから興味があり、医学を学んだからどこでもそれを生かすすべはあるだろうし、言葉はすぐなれるだろうと思っていた。ところが館員から日本は亡命を認めないのだと断られ、命からがらコスタリカ大使館へ駆け込んだ。

たしかにスウェーデンを滞在地に選ぶ人は多かった（当時、スウェーデンは社会民主労働党の政権で、パルメ首相は米国のベトナム侵略を強く批判して、兵役忌避者や脱走米兵を受け容れていた。その延長上で、米国の介入に抵抗するアジェンデ政権に対しても連帯感をもつ言動を行なっていることが広く知られていた）。自分は MIR（革命左翼運動）の創設時からのメンバーなので、危険な立場だということとはよく分かっていた。断られた時は、驚きどころではなかったね。

コスタリカ大使館の中はそんなに広くはなかったから、本当に駆け込んだ人が押し合いへし合いするような感じだったよ。でもみんな我慢しあっていたとはいえ、尋常ではない状態で、どのようにここから外の世界へ出て行かれるのか、先の見えない恐ろしい時間だった。だから、このとき人間関係を保つのは大変なことだった。夫婦間の亀裂だの、接する人間同士がこじれるだの珍しくなかった。自分もそうだ。幼い娘がいたが、妻とは今離婚調停中だ。

なんとか出国できたが、それから先も国境を越えて隣国へ入るときに入国を認めようとしぬ管理庁ともめて、酷暑のなか日陰もない国境の橋の上で一日を過ごし、橋の欄干の下の日陰になんとか頭をいれてしのいだが、倒れてしまった人もいた。それでもなんとかたどり着け、生活できるようになった。

民族再興目指し闘うワゴ・メンデス

ワゴ・メンデス＝マルティネス、1960 年 11 月生まれ、60 歳。パナマ先住民族クナの指導者の一人。本業は美術デザイナー、副業は民芸品モラの販売と先住民族居住地での観光案内だ。同国北西部沖にあるクナ民族居住地サンブラス諸島の島に生まれる。

父はバナナ、カカオ、ココ、米、トウモロコシなどを作る農民、主婦の母は助産婦で、モラを作っていた。兄弟姉妹 8 人の家庭は貧しかったが、食べ物が不足したことはなく、「心は豊か」だった。

利発な少年だったワゴは中等学校在学中の 16 歳のとき首都パナマ市に出て、ホテルで皿洗いするなど苦学して 1985 年に国立大学建築学部デザイン科に進学する。だが 4 年生だった 1989 年の末、ブッシュ（父）米政権がパナマに大規模な軍事侵攻をかけ、ノリエガ軍政を圧殺し、マヌエル・ノリエガ将軍を米国に連れ去った。グアテマラのノーベル平和賞受賞者リゴベルタ・メンチューを団長とする調査団は、3,000～8,000 人のパナマ人が殺されたと発表した。

米政府によるこの一大暴挙で大学は閉鎖、ワゴは、卒業できないまま中途退学。その後、奨学金を得てハーモンド大ルイジアナ校、ジョージア州立サザン大など米大学に留学、デザインを学び続けた。今では美術デザイナーとして活躍、東京やパリのビエンナーレに出品する準備を進めている。

だが妻と子ども 8 人、孫 5 人の大家族を支える大黒柱であるがゆえに、モラの販売や、故郷サンブラス諸島に所有する小島周辺での海洋観光で稼がなければならない。モラは、手仕事で制作するクナ民族の女性にとって重要な収入源だ。ワゴはモラのデザインを担っている。

ワゴには、もう一つの仕事がある。クナ民族復興のための「政治的工作」である。クナは南米大陸と中米の間のダリエン地峡一帯に居住していたが、パナマがコロンビアから独立したため、民族はコロンビア、パナマ本土、サンブラス諸島に分散させられた。人口は合わせて数万人と少ない。

「1925 年 2 月、時のパナマ政府の民族同化政策に怒った先人は武器を取って戦った。その血が私たちの体内に流れている。差別撤廃と先住民族の生活向上を真剣に考え政策を実行する候補が現われれば応援する。そんな候補が来年の大統領選挙に出馬する。今、彼と話し合っている」。興奮せず、しなやかに闘うのがワゴの作風だ。

「政治的工作」には、もう一つの活動がある。1989 年末の米軍来襲で殺されたクナの人々の数を正確に把握すること。ブッシュ政権と米軍による悪行の証拠物件を展示している博物館に、クナ民族の被害状況をまとめ資料として提供するためだ。

「私たちにはラ米源民族の一つとしての誇りと魂がある。それを踏みにじったのが、ブッシュの暴挙だった」

ワゴは、気候変動でカリブ海の水位が上がって故郷の島々が水没する危険に直面するのを防ごうと、国際的な環境保全運動にも取り組んでいる。



Wago Mendez さんの Facebook から

ユカタン風ズッキーニ（カボチャ）炒め

CALABACITAS FRITAS

今回は、ユカタン半島、とりわけユカタン州でよく食べる料理です。野菜たっぷりだからとても健康的です。カボチャは、トマトやカカオ、バニラなどとともにメキシコ原産で全世界に広まった野菜です。メキシコには多くの種類のカボチャがあり、なかでもユカタンの品種はやわらかくて丸いのが特徴で、皮も種子も食べることができます。色はズッキーニに似た深緑です。

この品種は日本では入手できません。メキシコからもカボチャは輸入されていますが、ユカタン以外の地域の品種のようです。この品種のカボチャを使って、マヤの人たちもさまざまな料理をつくっていました。スープや乳児のためのピューレをはじめ、さまざまな肉や野菜、魚介類と組み合わせた料理をつくってきました。

私が子どものころ、母は今回の料理を、昼食や夕食にだしてくれました。このユカタン特産のカボチャでジャムをつくってくれたのも覚えています。メキシコに行くことがあれば、ぜひ食べてみてください。

日本ではユカタンのカボチャは入手できないので、今回はズッキーニを使用しています。

▽材料（4人分）

- ・ズッキーニ 大1本
- ・トマト 大4個
- ・玉ねぎ 中1個
- ・オリーブオイル 大さじ4
- ・ピザ用のとろけるチーズ 1/2カップ
- ・粉チーズ
- ・フランスパンか食パン

▽作り方

- ① ズッキーニはへたをとり、1センチ角に切る。
- ② トマトはへたをとって、みじんぎり。
- ③ 玉ねぎはみじん切り。
- ④ ズッキーニを20分ほどゆで、ざるにあげ、



（写真はユカタン州のカボチャ）

日本でこうしてつくっても、地元の味にそっくりにしあがります。

- ⑤ フライパンにオリーブオイルをひいて、点火する。
- ⑥ 玉ねぎやトマトを投入して色が変わるまでいためる。
- ⑦ トマトと玉ねぎの色が変わったら、ゆでたズッキーニを加え、5分ほど火を通す。
- ⑧ とろけるチーズを散らす。
- ⑩ 平皿にいれて、粉チーズをふる。
- ⑪ トーストしたパンを皿のまわりに飾る。

（注 この料理には塩はつかいません。ユカタンのカボチャやズッキーニには甘みがあるからです）

ムネチャンの LA 情報拾い読み・斜め読み (2023 年 7 月)

小林 致広

(1) 南は抵抗する

4月25日から5月7日まで、メキシコ南部の7州(チアパス、オアハカ、ベラクルス、タバスコ、カンペチェ、ユカタン、キンタナロー)を巡歴する「南は抵抗する!」というキャラバンと国際集会が開催された。集会を組織したのは、メキシコの先住民全国議会(CNI)である。集会は、2021年秋にCNIがサパティスタ民族解放軍(EZLN)と協働して行った「不屈のヨーロッパ・グローバル・サウスの歴訪のキャラバン」に続いて、メキシコ国内でのグローバル・ノースに対する闘いとして設定されていた。

メキシコの南部・南東部においては、AMLO政権の第4次改革(4T)の掛け声のもとで、マヤ鉄道計画や地峡部横断鉄道計画といった巨大開発家画が「国家安全保障」案件として強権的に推進され、先住民の土地や領域が略奪されている。こうした状況に対する様々な抵抗運動の現場、テワンテペック地峡部のプエンテ・マデラ工業団地予定地での反対運動、先住民アユークのサン・フアンガイチコビ行政区での地峡横断鉄道の拡張反対運動の座り込み、キンタナロー州のマヤ鉄道通過予定地の大量森林伐採の現場、カンペチェ州のカラクム保護区での国防省による無許可ホテル建設の現場などを、キャラバンは約10日かけて歴訪した。

5月6・7日にはサンクリストバルのカラコル・ハシント・カネックで、「世界企業資本主義、地球規模の父権性、叛乱する自治」をテーマとする国際集会が開催された。集会にはCNIの40民族940名のほか、30か国と10自治地域(カタルーニャ、バスク、クルディスタン、マプーチェなど)からの参加者を含めて約1,200名参加した。



プエンテ・マデラでの集会



6・7日の国際集会

出典: <https://www.elsurreisite.org>

(2) フワイ州先住民: ウィパラ旗万歳、州憲法改正反対

リチウム開発への異議申し立てを最高裁に提出した2010年以来、アルゼンチン北西部フワイ州の先住民はさまざまな形で資源略奪に抵抗してきた。2023年5月、州知事ヘラルド・モラレスは制憲州議会を開催し、表現の自由制限、社会的抗議活動厳罰化、戦略的資源リチウムがある塩湖一帯の土地の多国籍企業への売却を容易にする先住民の未登記土地の活用などの州憲法改正案が提示した。

アルゼンチンでは先住民の土地の大部分は未登記で、名目は国有地となっている。州憲法改正が通過すれば、先祖伝来の土地が略奪されかねない先住民の共同体(州内に約400)は州憲法改正反対を鮮明にした。6月1日、先住民(グアラニ、オマガアカ、コリャ、アタカマなど)によって「多民族州制憲会議」の結成が宣言された。6月14日から、高原部のコリャやアタカマ、低地部のグアラニなどの先住民は、ウィパラ旗を掲げ、州都に向けて行進を開始した。先住民の土地登記を要求し首都まで徒步行進した1946年の第1次平和的急襲(malón de la paz)、2006年の第2次平和的急襲に続く第3次平和的急襲が展開されることになった。州内主要道路の20カ所近くで道路封鎖が実施されたが、州政府は催涙弾発射など厳しい弾圧を展開した。

6月20日、制憲州議会は州憲法改正を承認したが、先住民の土地の権利に関する36条と50条は、先住民の抗議運動によって、1986年州憲法のままとされた。オマガアカが集住ウマウカ行政区政府などは州憲法改正反対を表明し、中央政府



土地略奪反対とウィパラ旗

出典: Tierra Viva、2023年6月16日

も州憲法は違憲と表明した。州知事は先住民との対話で先住民の権利を定めたいと方針を変更している。

(3) ヤスニの開発に関する住民投票

8月20日に行われるエクアドルの大統領・国会議員選挙と同じ日に二つの住民投票が実施される。そのひとつがヤスニ国立公園 ITT 鉱区に埋蔵された石油(推定 8.46 億バレル)の開発と環境保全をめぐるものである。今回の住民投票は、政府主導のヤスニ ITT イニシアティブの頓挫を受け 2013 年に結成された YASunidos が長く要求していたものである。

大統領ラファエル・コレア(2007~17年)が2007年に提案したヤスニ ITT イニシアティブ(開発で想定される利益に見合う信託基金 36 億ドルが調達できれば油田開発停止)は国際社会の支援がなく 2012 年に中止された。2016 年から ITT 鉱区の原油採掘が始まったが、レニン・モレノ政権(2017~21年)下の 2018 年 2 月の国民投票では同地区の石油開発面積は縮小されていた。

国民投票キャンペーン活動を申請した 23 組織のうち賛成派は 9 組織だったが、実際に 3 週間の住民投票キャンペーン活動を認可された 9 組織のうち賛成派は 7 組織となっている。反対派は、政党のアミーゴ運動(右派)、エクアドル先住民族文化間連盟アマルの 2 組織である。賛成キャンペーンを認められたのは、なぜか大統領候補ヤク・ペレス支持の人民連合党、エクアドル社会党、民主主義 Sí 運動の 3 政党、2 労組(教育労働者組合、労働総同盟)、同国最大の先住民組織エクアドル先住民族連盟となっている。

同地区の先住民族ワラオニやキチュアの指導者の一部は就業や教育の機会が奪われるので開発停止反対という姿勢を示しているが、背後にはペトロエクアドルの働きかけがあることはいうまでもない。賛成が多数となれば、ペトロエクアドルは同地区にある石油採掘施設の段階的引き上げを 1 年以内に開始することになる。



国民投票歓迎の YASunidos



CONAIE は賛成を表明

出典：Prensa EC, 2023 年 7 月 9 日

(4) マラカイボ湖のエビ養殖業

南米最大のマラカイボ湖周辺で、疲弊したベネズエラ経済にささやかな活力を与える産業が発展している。マラカイボ湖では 20 世紀初頭に石油の海が発見され、1970 年代にはベネズエラを豊かにしたが、油の流出や藻の繁殖で一部の地域は深い緑色に変色している。

2013 年から 2021 年までの間に経済は 75% 以上も縮小したベネズエラにおいて、漁業は危機の最も困難な数年間を何とか持ちこたえてきた数少ない産業のひとつである。2020 年の漁業生産額は、2016 年の 216% 増とされている。とくに輸出額(2022 年)では石油に次ぐ第 2 位の地位を占めているエビ産業は、成功を収めている数少ない産業のひとつである。

マラカイボ湖域の漁業関係者は、石油の流出などで収穫が激減してしまった蟹に替わって、2000 年以降は主要な活動をエビ養殖に転換していった。汚染対策として水循環システムで機能するフィルター装置を導入し、蒸発で失われる分だけを湖から取り入れる形にしている。エビの餌となる大豆は米国の禁輸措置の対象外であり、必要な量は十分確保できているという。現時点での養殖エビ生産における障害となっているのは、養殖施設を運営する燃料の確保、おもに EU 諸国やロシア向けの製品の輸送システムの確保、そして資金の調達とされる。

現在、エビ養殖産業への従事者は約 30 万人とされ、マラカイボ湖のあるスリア州住民にとって、エビ養殖はひとつの「希望の星」となっている。ベネズエラのエビ輸出の約 80% は、マラカイボ湖からもたらされている。現在のベネズエラのエビ生産量は、100 万トンとされるエクアドルの 1 割に満たない 8 万トンだが、約 18 万トンを生産できる技術と設備を備えており、2029 年までに 60 万トンのエビを輸出することが目標という。



マラカイボ湖の養殖施設



汚染物質流失に苦しむ漁民

出典：<https://www.bbc.com/mundo/noticias-america-latina-65779767>

編集後記

知り合いに教えてもらった“Living in Exile: Carlos Mejía Godoy”と題する動画を観た。2018年5月末の「母の日」の平和行進への大弾圧の後、カルロス・メヒア・ゴドイは、ダニエル・オルテガ宅を訪れ、「殺すのを止めよ。ダニエル。あなたは犯罪者だ」と、抗議したという。殺害を恐れ、7月末にコスタリカに脱出、現在は米国で移民（亡命）生活を余儀なくされている。14分の短い動画では、故郷のソモトや独裁者に対するニカラグアの人々の抵抗を題材とした絵画制作の様子も紹介されていた。描かれている色鮮やかな作品を観て、1991年の京大西部講堂のコンサートの際、彼らが即席で模造紙に描いた壁画をステージ横の壁に貼ったことを思い出した。

小林 致広

次回「そんりさ」186号から、発行が一月ずつ後（2月、5月、8月、11月）になります。

次回の印刷作業は東京で、2023年11月11日（土）

発送作業は関西で、2023年11月18日（土）の予定です。

参加いただける方は、recom@jca.apc.org まで連絡ください。

Vol. 184 滞在と移動のプロセス メキシコ・グアテマラ国境の事例	Vol. 181 コロンビア大統領選挙 依然続く紛争の現場から
Vol. 183 いのちの踊り ビオダンサ	Vol. 180 ハイチ共和国はどんな国？
Vol. 182 「マヤ鉄道」建設は国家の安全保障問題？	Vol. 179 ニカラグア大統領選挙現地報告

メーリングリスト

レコムに入会（もしくは購読）すると、メーリングリストにも無料で参加できます
メールアドレス、自己紹介メールを添え、recom@jca.apc.org まで、ご一報ください
メーリングリストに登録します。レコムの活動は会員のみなさんによって支えられています

会員の種類

- ☆会 員：年 8,000 円 …会の運営、総会参加・投票、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
- ☆学生会員：年 5,000 円 …会の運営、総会参加・投票、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
- ☆賛助会員：年 10,000 円（一口） 総会参加、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
- ☆購読会員：年 4,000 円 …『そんりさ』の購読、メーリングリスト参加可

レコム連絡先（住所が変わりました）

〒678-0001 兵庫県相生市山手2-502-1 大西方
お問い合わせは、郵便、もしくはE-mailで
お願いします。

ホームページ：<http://www.jca.apc.org/recom>
E-mail：recom@jca.apc.org
Facebook：<https://www.facebook.com/recomsonrisa/>

郵便振替口座：00110-7-567396

日本ラテンアメリカ協力ネットワーク
レコム口座 103万2659円
グアテマラ基金口座 89万7709円
(2023年7月現在)

そんりさ (SONRISA) 185号

2023年7月23日発行
日本ラテンアメリカ協力ネットワーク
(RECOM) 定価 400円